

2019 年度  
事業計画書  
予算書



ネパール UMN タンセン病院で働く元奨学生

  
**JOCS** 医療を通じて、愛を世界へ。  
公益社団法人  
**日本キリスト教海外医療協力会**  
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

## 目 次

1. 新年度の抱負 .....	1
2. 中長期計画における位置付け .....	2
3. 海外諸活動 .....	2
3-1 海外派遣 .....	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー .....	2
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー .....	3
(3) 短期 .....	4
3-2 奨学金事業 .....	4
3-3 協働プロジェクト (プロジェクト・りとる) .....	8
(1) SALT (次世代のための健康と衛生) プロジェクト カンボジア .....	8
(2) シロアムプロジェクト ケニア .....	8
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト タンザニア .....	9
3-4 災害救援復興支援 .....	9
4. 国内諸活動 .....	9
4-1 国際保健人材育成 .....	9
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動 .....	10
4-3 マーケティング .....	12
5. 運営体制 .....	14
5-1 社員総会 .....	14
5-2 理事会 .....	15
5-3 委員会 .....	15
5-4 事務局 .....	16
6. 予算書 .....	17
収支予算書 .....	17
収支予算書内訳表 .....	20

## 1. 新年度の抱負

みんなで生きる世界 自立できる世界をめざして

<会長 畑野研太郎>

JOCSの機関誌を『みんなで生きる』と改題し、月刊発行としたのは、1972年1月号からです。「みんなで生きるために」との言葉が、ネパールの青年をとおして与えられました。この言葉は、エマオへの道行きで同行して下さった方が弟子たちに「み言葉」を解き明かして下さったように、創設メンバーの先輩達の思いと祈りを充たす言葉でした。こうしてJOCSはこの理念を掲げて歩んできました。さらに、具体的な行動をJOCSと初めて出会う方々に伝えるために、「医療を通じて、愛を世界へ。」というキャッチフレーズをあわせて使用するようになりました。その根底にあるのは、「まず神の国と神の義とを求めなさい」、「神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」、という言葉でありましょう。

JOCSはまた、現地の方々が自立できる世界になることを願い求めています。医療従事者に長期滞在ビザが出ない国が増加してきました。これは喜ぶべきことです。1961年に派遣されたJOCSの最初のワーカー梅山猛医師がインドネシアに派遣された時には、医師は人口20万人に1人という状況でした。しかし今では、多くの国々で著しい医療者の不足は解消されてきたからです。今年は新しいワーカーがタンザニアに出発され、一人のワーカーが、11年の働きを終え目標をはたして帰任されました。感謝です。困難な時代ですが、もっと多くのワーカーを送り出すことを願い求めます。現実には、医療者の派遣を必要とする地域や分野はまだ多く残されているからです。

奨学金支援も続けます。奨学生は、ビザの発行が不可能となり、ワーカーを送ることのできなくなった地域に、JOCSの祈りを共にする同労者を送ることです。

協働プロジェクトは、必要な働きを現地の方々が担うのを、JOCSが共に歩むことで勇気づけ、軌道にのせるお手伝いをする大切な事業となってきました。カンボジアでのSALTプロジェクトは、5年間の活動を終える年です。まかれた種がこれから成長していくために大切な最後の年です。タンザニアの母子保健プロジェクトは、新しいワーカーの参加を得て奨学金事業もあわせて、総合プロジェクトとして進んでいきます。

とくに奨学金事業や協働プロジェクトでは、事務局スタッフの海外出張の機会も増加しています。ワーカー、事務局スタッフの働きの安全のためにも、ますます祈りが必要となっています。

人々の間をつなぎ、エンパワーメントを助け、「平和」を求める祈りを続けます。

## 2. 中長期計画における位置付け

2019年度は5ヵ年計画2018の2年目となる。「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」というビジョンに向かい、活動を進めて行く。

海外諸活動においては、既存の活動を粛々と進めつつも、5ヵ年計画のビジョンへと近づけるよう新たな展開を模索する。例えばタンザニアにおいては同じタボラ大司教区保健事務所の傘下でありながら、特に母子保健に関する指標の悪い病院とその周辺地域での活動を展開するべく、調査を進め、より詳細な計画を立てていく。その際にはワーカーの働き、奨学生、協働プロジェクトを有機的に連携させて、より効果的に、取り残された一人ひとりと関わるようにしていく。あるいは、ウガンダやインドネシアにおいてはJOCSが探している、本当に支援が必要な人により近づけるよう、奨学金の協力団体を見直していく。

国内諸活動においては、JOCSの使命に共感していただける支援者との出会いの機会を増やす施策をとり、その機会を十二分にいかせるように、効果的な広報に必要な準備もする。そのために、これまでの活動の中で与えられた様々な物語を将来にわたって活用できるよう整備する。

## 3. 海外諸活動

海外派遣事業ではバングラデシュの活動の方向性を見定め、タンザニアでは新たなワーカーの活動の詳細を確定していく。奨学金事業は各国ごとの方針をより明瞭にして効果的な事業を展開する。協働プロジェクトはこれまでの経験から制度化できる部分を制度化するとともに、新規案件の発掘と形成のための調査を進める。また、ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトの3事業のより効果的な連携をすすめる。

### [3-1] 海外派遣

バングラデシュでは岩本ワーカーが第6期の活動を引き続きおこなった後、帰国報告会をおこなう。また、第6期終了時レビューをおこなう。タンザニアでは雨宮ワーカーが語学研修を終え、任地タボラでの活動を開始する。

今後のネパール、ケニア、カンボジアなどへの派遣可能性を調査する。

#### (1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先：L'Arche Mymensingh (ラルシュ・マイメンシン)

派遣期間：2016年7月～2019年7月

活動概要：知的障がいのある人々と共に生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをおこなっている。

- 1) トラスト文書の見直し作業を完了させ、コミュニティ運営をこの新しい規約に沿って運営していく。
- 2) 第三の土地 2 ヲ所（各 7 デシマル≒0.01 エーカー）の購入に関し、国際ラルシュと現地理事会の共通理解を図り決定する。
- 3) コミュニティの暮らしが支障なく守られるように、岩本ワーカーの不在時の支援体制の整備を図る。同時にこれをリーダーシップチームの実践の機会とする。  
岩本ワーカーの不在中のリーダーシップとコミュニティ運営の状況を評価し、そしてリーダーシップチームにおける責任委譲の内容を決定し、継続実施していく。
- 4) 新任の国際ラルシュのバングラデシュ担当者との関係づくりに務め、コミュニティの現状と今後について共通理解を図り、良好な協働関係を図る。
- 5) アシスタントの養成プログラム（知的障がい分野関連／インドのラルシュ訪問等）を実施する。
- 6) 国内外の訪問者とボランティアの受け入れをおこなう。
- 7) 日本での報告会活動をおこなう。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)  
St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロⅡ世病院）

派遣期間：2019年1月～2022年1月

活動概要：ママ・ナ・ムトトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援を行う。

- 1) 現地研修
  - ・4月初旬までダルエスサラーム市内の語学学校にてスワヒリ語の研修を実施する。
  - ・研修終了後、タボラ州にある派遣先へ移動し、TAHO 傘下の聖アンナ・ミッション病院で現地医療に関する研修を実施する。
- 2) ママ・ナ・ムトトプロジェクトの活動
  - ・現地医療研修終了後、カリウアにある聖ヨハネ・パウロⅡ世病院に移動し、ママ・ナ・ムトトプロジェクトに係る活動を開始する。
  - ・聖ヨハネ・パウロⅡ世病院を含む TAHO 傘下にある 8 つの保健医療施設のプロジェクトに関するデータの収集と分析を進める。
  - ・プロジェクトでおこなう活動の詳細とその計画は、2018 年度から既に収集を開始している母子保健のデータを参考に、現地協力団体および JOCS と相談しながら今後策定を進めていく。

### 3. 海外諸活動

#### 3) TAHO での活動

- ・ TAHO が四半期に一度、傘下の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）に参加する。
- ・ TAHO が年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援する。

#### (3) 短期

短期派遣要望の調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

### [3-2] 奨学金事業

2018年度からの継続としてインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニアの奨学生を支援する。ウガンダにはモニタリングに行き、協力団体の見直しのための調査をおこなう。2019年度募集では、各国への支援方針に基づきつつ選考を進める。また、現在奨学生のいない国の要望も探る。

#### (1) インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先の病院である GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く 5 名を引き続き支援予定である。インドネシアでは、広く人材も育ってきている一方、これらの保健医療施設では保健医療人材が不足しているため、今後も支援を継続する。

#### (2) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、LMN アナンダバン病院、UMN、タンセン保健科学専門学校（旧タンセン看護学校）とこれらの組織の関連病院で働く保健医療従事者 11 名を継続して支援する予定である。准看護師を正看護師にする研修の要請が続いているため、積極的に応えていく一方、専門医など、高度な人材育成のニーズにも応えていく。

#### (3) バングラデシュ

乾真理子元ワーカーの派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通称カイラクリ・クリニック）所属のパラメディック（\*）2 名を継続して支援する。両名とも働きながら 3 年間をかけてパートタイムでパラメディック技術の資格を取得予定である。

\*パラメディックとは准医療従事者の意、カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、常駐医がおらずパラメディックが医療を担っている。

(4) ウガンダ

UPMB (ウガンダ・プロテスタント医療連盟) 傘下の 5 名を継続支援する。学びの内容は看護 3 名、助産 1 名、公衆衛生 1 名となっている。

また首都カンパラ近郊で HIV/AIDS ケアを担うリーチアウト・ムブヤの看護スタッフの看護学士号取得を支援する。

(5) ケニア

2018 年度に採用した協働プロジェクト協力団体であるシロアムの園の理学療法スタッフを継続して支援する。週末のパートタイムコースで 3 年間かけて理学療法学士号を取得する予定である。

(6) タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先であるタボラ大司教区保健事務所 (TAHO) 傘下にある保健医療施設で働く 11 名を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、看護・助産、臨床検査など基礎的な分野での研修を希望する人が多い。

雨宮ワーカーの主な活動先であり、TAHO 傘下の保健医療施設の中でも人材不足が深刻な聖ヨハネ・パウロ II 世病院の人材育成を最優先に支援する。加えて、TAHO では診療所からヘルスセンターへの格上げを計画している施設への人材の配置を優先させている。JOCS では、TAHO の計画を尊重しながら支援を行う。

略語一覧

- \* GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- \* ICAHS : Indonesia Christian Association of Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- \* HDCS : Human Development and Community Service (ネパールのキリスト教系 NGO)
- \* LMN : The Leprosy Mission Nepal (ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- \* UMN : United Mission to Nepal (ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)
- \* UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- \* TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

## 3. 海外諸活動

## 2019年度支援予定奨学生一覧

## インドネシア (5名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
会計スタッフ	26	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年06月 ~ 2020年05月
データ管理、医療記録担当者	20	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ~ 2021年06月
看護師長	37	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2019年07月 ~ 2021年07月
看護師、治療室主任	29	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	看護学	2017年09月 ~ 2019年09月
看護師長	45	女	ICAHS Emmanuel Hospital Klampok	看護学	2017年08月 ~ 2019年08月

## ネパール (11名)

診療放射線技師助手	45	男	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	放射線診断学	2016年10月 ~ 2019年10月
准看護・助産師	30	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	看護学	2018年08月 ~ 2021年08月
看護師・助産専門技能者	33	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	看護学	2017年09月 ~ 2020年09月
歯科助手兼准看護・助産師	23	女	HDCS Lamjung District Community Hospital	歯学	2018年08月 ~ 2021年08月
図書館司書	35	男	Tansen School of Health Science	図書館情報	2018年06月 ~ 2019年06月
看護講師助手	31	女	Tansen School of Health Science	看護学	2018年10月 ~ 2021年10月
理学療法士助手	31	女	The LMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年08月 ~ 2021年02月
看護師	29	女	The LMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月
医師	41	男	The LMN Anandaban Hospital	医学	2017年04月 ~ 2020年04月
臨床検査技師助手	29	男	UMN Hospital Tansen	臨床検査	2016年10月 ~ 2019年10月
准看護・助産師	40	女	UMN Hospital Tansen	看護学	2016年10月 ~ 2019年10月

## バングラデシュ (2名)

パラメディック	26	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年01月 ~ 2020年12月
医長代行	33	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ~ 2022年01月

## ウガンダ (5名)

准看護師	26	女	Reach Out Mbuya	看護学	2018年08月 ~ 2021年06月
看護助手	32	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ~ 2020年05月
准看護師	28	男	UPMB Diocese of Northern Uganda /St. Luke HC II	看護学	2018年07月 ~ 2019年12月
准医師	39	男	UPMB South Rwenzori Diocese /Kinyamaseke HC III	公衆衛生	2018年08月 ~ 2021年08月
准看護師	27	女	UPMB Soroti Diocese /Kateta COU HC II	助産学	2018年07月 ~ 2019年12月

## 2019年度支援予定奨学生一覧

## ケニア（1名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	26	男	The Garden of Siloam	理学療法	2018年09月 ～ 2021年09月

## タンザニア（11名）

シスター、医師補	41	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ～ 2023年10月
医療助手	24	男	TAHO Kipalapala Dispensary	臨床検査	2017年04月 ～ 2019年04月
シスター、病院管理責任者	41	女	TAHO Ndala Hospital	病院運営	2017年10月 ～ 2022年10月
シスター、医師補	35	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月 ～ 2023年08月
医師補	32	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月 ～ 2019年10月
看護助手	29	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年11月 ～ 2019年11月
清掃員	22	男	TAHO St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年06月 ～ 2019年06月
医療助手	31	女	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ～ 2020年09月
医療助手	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ～ 2019年09月
准看護・助産師	24	男	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2018年10月 ～ 2019年10月
准看護・助産師	27	男	TAHO St. John Paul II Hospital	看護学	2019年08月 ～ 2020年08月

\* 職業欄の職務・職種は、奨学金申請時点のもの

### 3. 海外諸活動

#### [3-3]協働プロジェクト(プロジェクト・りとる) (Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

3つのプロジェクトを継続実施する。ケニアのシロアムプロジェクトでは短期専門家の派遣を充実させる。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトでは雨宮ワーカーの活動との連携を進める。カンボジアの SALT プロジェクトは5年の活動の最終年となるため、終了時レビューを行う。

また、新規協働プロジェクトの発掘形成の調査をする。

##### (1) SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey=次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国	: カンボジア
活動地域	: バッタバン州
プロジェクト期間	: 2014年10月～2019年9月30日 (5年間)
協力団体	: バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者	: バッタバン司教区内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標	: 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

第5年次(2018年9月～2019年9月)は小学校15校、中学校4校を対象として、健康教育、思春期教育を実施している。プロジェクト終了に向けて第一四半期にモニタリング調査を実施した上で、9月末前後に終了時調査を実施し、活動成果を総括する。

##### (2) シロアムプロジェクト

対象国	: ケニア
活動地域	: キアンブ地方行政区 インデンデル地区
プロジェクト期間	: 2016年4月1日～2021年3月31日 (5年間)
協力団体	: コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者	: シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標	: シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

シロアムの園との5年間の協働期間の第4年次を迎える。シロアムの園では、施設での療育活動に加え、コミュニティでの療育活動の展開を視野に入れた準備にとりかかっている。2019年度は、このために必要な実施体制の強化、特に人材の育成・能力強化に力を入れ、引き続き、療育分野の短期専門家の3度目の派遣とともに、山内章子元ワーカー

ー（バングラデシュ）の4度目の派遣による理学療法士の能力強化を担う。また作業療法分野の短期専門家による協力もすすめる。さらに現地スタッフの能力強化のため、療育を担う主任教師の訪日研修を2019年夏に予定している。  
モニタリングのための現地調査は、年に1回の予定。

### (3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア  
活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区  
プロジェクト期間 : 2018年4月～2023年3月（5年間）  
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)  
受益者 : TAHO とその傘下の8の保健医療施設（病院や診療所など）  
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

雨宮春子ワーカーも現地に入り、具体的な活動を開始していく。プロジェクト1年目から収集しているTAHO傘下保健医療施設8カ所の母子保健に関するデータの分析を進め、現地協力団体および雨宮ワーカーと相談しながら、今後の具体的な活動内容とスケジュールを決め、活動を進めていく。

## [3-4] 災害救援復興支援

自然災害などの災害救援への支援要請があった場合に、要請に基づき支援を検討する。

## 4. 国内諸活動

新規ワーカーの応募へにつながるよう人材育成事業を進める。また、新規の入会者、支援者を得つつ、既存の支援者にも継続して支援してもらえよう国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動及びマーケティング活動をおこなう。

### [4-1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を対象とした各種人材育成活動をおこなう。特にJOCSワーカーとして海外で働きたいと思ってもらえよう、JOCSの特徴が良く伝わる活動を工夫する。

#### 4. 国内諸活動

2019年度はスタディツアーを予定していないが、JOCSのワーカー志望者への説明会と個別対応は継続する。

##### (1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、2019年度も4回の勉強会を開催する。また従来どおり、勉強会後に派遣希望者相談会を実施し、ワーカーの育成・発掘に努める。

##### (2) フィールドセミナー

国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、国内で活動する草の根の働き人から、弱くされた人々と共に生きる姿勢を学ぶことを目的として実施する。開催場所は、横浜市寿地区やその他の草の根の働きがおこなわれているフィールドを検討する。

#### [4-2] 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、以下の活動をおこなう。

##### (1) 使用済み切手運動

2019年度も前年度に引き続き、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コインの収集もあわせておこなっていく。

##### 1) 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2019 2019年5月1日（東京都立産業貿易センター台東館）

スタンプショウ こうち 日程未定

##### 2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

書き損じハガキ収集は通年おこなっているが、特に、収集の強化月間として、2019年12月から2020年4月末まで、ホームページ、チラシ等の広報を通じて、書き損じハガキキャンペーンをおこなう。

##### 3) 送料負担キャンペーン

企業や団体が使用済み切手運動に取り組みやすくするため、1箱5キロ以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキの送付に関し、送料（ゆうパック利用）をJOCSが負担するキャンペーンを実施する（2019年6月1日～11月30日の半年間）。

## (2) ワーカー活動報告会（岩本直美ワーカー）

第6期を終えてバングラデシュから帰国する岩本直美ワーカーの活動報告会を2019年夏から秋にかけて開催する予定である。これまで支援いただいていた方々に対する感謝の報告とともに、新規支援者の理解と賛同を得ることを目的とし、教会や友の会、その他支援団体を通じて活動報告会の開催を広く呼び掛け、全国各地で実施する。

## (3) 地区 JOCS 活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・四国高知各地区において、支援者グループによる使用済み切手整理や地域のイベント出展、チャリティコンサートなどの催し物が実施される予定である。各地区の催し物への帰国ワーカー派遣、報告会開催等の支援をおこなう。

## (4) 関西 JOCS バザー

第25回目のバザーを5月11日（土）に開催する。ボランティアによるバザー委員会が中心となり、大阪聖パウロ教会を会場に行う。場所の提供、その他側面からの支援として関西事務局が関わる。「切手を持ってバザーに行こう！」をキャッチコピーに、多くの人にバザーに来てもらい、JOCSの活動を広報し、使用済み切手運動を広めることに努める。

## (5) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。その際、先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。例えば、チャリティバザーやクリスマス献金前の勉強会の場合には、生徒たちがより積極的に活動したいと思えるよう、現地の物語を多く入れるなど、内容を工夫する。

保健医療系の学校から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に、講師を依頼する。

## (6) 事務局訪問受け入れ

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や JOCS の保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

## (7) 視聴覚資料

希望者に活動紹介 DVD の貸し出しをおこなう。

また、インターネットで視聴できるように、以下の活動紹介 DVD をホームページに動画形式で掲載する。

#### 4. 国内諸活動

『アサンテ サーナ (Asante Sana) タンザニアにまかれた種』、『カシナマ・ジュパン』、『心をひらいて』、『アジアの呼び声に答えて』、『はるかなるネパールの村へ』

##### (8) 関西 JOCS のつどい

JOCS を知らない人たちに来場してもらえるよう広報に努める。また、理解と賛同を得て、新規支援者になってもらえるような道筋を作る。

##### (9) 関西事務局オープンサタデー

「一緒に考え、参加して発言する」勉強会を開催する。毎回多彩な講師を迎えて開催することで、平日 JOCS の活動に参加できない会員、未会員の方に実際に事務局に来てもらい、活動に関わってもらうきっかけを提供する場とする。

##### (10) 国際協力イベント参加

2019 年度も東京ではグローバルフェスタ JAPAN に、関西ではワン・ワールド・フェスティバルに出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCS の認知度を高める機会とする。

##### (11) ネットワーク活動

国際協力 NGO センター (JANIC)、関西 NGO 協議会、障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)、カンボジア市民フォーラム、公益法人 NGO 連絡会のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

##### (12) 創立 60 周年記念事業準備

JOCS は 2020 年に創立 60 周年を迎える。創立以来の歩みを振り返りつつ、今後の活動につながる記念事業プログラムの準備を 2019 年度から進めていく。

#### **[4-3] マーケティング**

新規支援者を得るために、引き続きクリスチャン及びキリスト教共感層を主な対象とした広報活動をおこなう。プレスリリースや雑誌広告など JOCS の認知度を向上させるための施策と、書店における対面ファンドレイズ、教会訪問による活動報告などによって直接支援行動をとってもらえる施策の両方をおこなう。

また、既存の支援者に引き続き支援してもらうため、説明責任を果たしつつ、JOCS の使命である人々と苦悩・喜びを分かち合っていることを伝えることができるような会報誌、報告書などを作っていく。

(1) 会報誌『みんなで生きる』の企画・編集

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るために、年6回（偶数月10日）発行する。

海外3事業（ワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告では、現地の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動、地区 JOCS の活動の案内・報告や、支援者からの声も掲載する。

(2) 子ども向け出版物

2019年は、『みんなで生きる』増刊号としての子ども号は発行せず、その代替として子ども向け出版物を作成する。教会学校等で使用してもらえるような冊子を作成する。

(3) 年次報告書

6月にA4版の冊子形態で発行する。会員と過去5年以内の寄付者に、会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

支援者に1年間の活動について報告し、会費・寄付の使われ方を知ってもらうとともに、今後も支援を継続してもらうことを目指す。

毎年受け取る支援者に飽きさせないページ構成とする。また、現地受益者、協力団体スタッフや日本国内の支援者の声を多く掲載する。

(4) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動であるプレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用し、プレスリリースを定期的におこなう。そのために事務局内体制を整える。

(5) 雑誌広告

キリスト教共感層に対して JOCS の認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』に1ページ広告を掲載する。JOCS の活動への共感を得られるようなストーリーを中心とした読み物の広告とする。ストーリーの内容は、現地モニタリングなどで得た情報をもとにした新鮮味のあるものとする。

(6) キリスト教書店での広報活動

いのちのことば社直営のキリスト教書店で、店舗でのポスター掲示と書籍購入者へのチラシ配布（全国8店舗と通信販売）、店頭での活動紹介イベントをおこなう。また、ほかのキリスト教書店に、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかけ、実施する。

#### 4. 国内諸活動

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCS の認知度を上げるとともに新規支援者獲得を目指す。

##### (7) 教会訪問

2018 年度に続いて、キリスト教共感層へのアプローチとして、事務局スタッフが教会を訪問し、活動報告と支援のお願いをする。継続的に支援してくれている関東圏の教会に報告会開催を依頼し、教会員や地域の人々に JOCS の活動を知ってもらう機会とする。

##### (8) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書を同封して支援者に送付する。

冬期募金については、募金趣意書を、支援者と、直近の 1 年以内に使用済み切手を初めて寄付くださった人に送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

##### (9) 遺贈

2018 年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCS の活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内する。

##### (10) 物語データベースの作成

活動の中で与えられた様々な物語を JOCS の広報物、活動報告会、啓発冊子等に展開するため、物語データベースを作成する。データベースの仕様を確定し、外部委託で作成後、具体的な物語を納めていくことを始める。

## 5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCS の使命に邁進できるよう総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。2019 年度は理事会、委員会の改選はないため、引き続き 2018 年度同様の理事、監事、委員長となる。

### [5-1] 社員総会

第 58 回定時社員総会を、2019 年 6 月 15 日(土)に早稲田の日本聖書協会キリスト教視聴

覚センター礼拝堂にて開催する。

### [5-2] 理事会

2019年度は年7回開催する予定である。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、小宅泰郎、久保礼子、土居弘幸、  
名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆、柳澤理子  
監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

### [5-3] 委員会

#### (1) 関西地区活動委員会

委員長：船戸正久 副委員長：彼谷廣子  
委員：大谷透、小野勝、加輪上敏彦、久保礼子、島田恒、杉村（諏訪）恵子、  
高田敏尚、中村満子、和田浩、呉よしこ（事務局）、渋谷理香（事務局）  
2ヵ月に一度の頻度で JOCS 関西事務局にて開催予定。各地区 JOCS の活動報告など情報交換をおこなう。それぞれの地区 JOCS の活動を互いに知ること、課題を共有し合い、また解決できるようにしていきたい。  
「関西 JOCS のつどい 2019」の開催に協力する。関西地域の会員以外の人にも参加してもらえるようなイベントを企画する。

#### (2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子  
委員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅、松浦由佳子（事務局）  
奨学金事業実施ガイドラインに則り、研修終了後にその地域に長くとどまり、住民の健康の維持、増進のために働きたいと願う人材であるか、研修内容が地域の保健医療事情の向上に資するものであるか、研修内容が地域の緊急性やニーズにあっているかなどを考慮し、奨学生の選考をおこなう。  
2020年度奨学生の募集に先立ち、奨学金協力団体など奨学生選考の方針について協議をおこなう。

#### (3) 財務委員会

委員長：榛木恵子 副委員長：羽山信輝  
委員：黒川純、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）  
2019年度も、予算が適切に執行されているかどうかを確認していく。必要であれば、補正予算案を協議し、理事会に提出する。また年度末には事務局が立案する 2020年度予算案の調整を行い、会長に提出する。  
健全かつ安定した財務運営が行われるよう、委員会でも大所高所から協議し、理事会、

## 5. 運営体制

事務局に提言をおこなっていきたい。

### (4) 物語委員会

委員長：畑野研太郎

委員：植松功、名取智子（事務局）

物語データベース作成の進捗状況を見ながら、物語の収集体制やデータベース活用のスケジュール等を検討していく。

### [5-4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、河井敦、小池宏美、高橋淳子、滝澤さおり、  
松浦由佳子、森田真実子、

関西事務局 渋谷理香、呉よしこ、斎藤桂